



Emergency Watch

No.71 Nov. 2016

神戸こども初期急病センター

2016年10月受診者数

2220人



【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・感冒 : 429人
2. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 246人
3. 感染性胃腸炎 : 220人
4. 咽頭炎 : 181人
5. 気管支炎 : 134人

11月に入り、急に寒さが増して体調を崩しやすい日が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

近頃マイコプラズマ感染症が流行しています。この病気は昔からオリンピックの年に流行する傾向があると言われていましたが、今年は過去10年間で一番の流行となっております。そこで今月はマイコプラズマ感染症について取り上げたいと思います。

マイコプラズマ感染症は一般の感冒とほとんど同一症状で自然治癒する場合や、肺炎を来し入院が必要となる症例もあり、重症度に差がある感染症です。特徴を以下にまとめます。

潜伏期間	2～3週間と比較的長い
感染経路	飛沫感染（咳やくしゃみ）と接触感染
症状	初期症状は発熱や頭痛など一般的な感冒とあまり変わらないが、鼻汁は伴わないことが多い。次第に痰の絡まない乾いた咳が増えてくる事が特徴。合併症として髄膜炎・膀胱炎・関節炎など多彩なものがある。
好発年齢	7～8歳をピークとした学童期に多い。新生児や乳児には少ない。
診断法	喉のぬぐい液を使用した迅速検査や、血液検査
治療法	自然治癒も期待出来る病気だが、進行した場合はマクロライド系抗生剤が第一選択となる。近年は薬剤耐性菌も問題となっており、抗生剤開始48時間～72時間経過後も全く症状改善しない場合は耐性菌を疑う
予防法	ワクチンはなく、特異的な予防法はない。手洗いやうがい、マスク着用などは有効であり、患者との濃厚接触を避ける事も重要である。
登校基準	出席停止の基準はなく、患者の状態が良くなれば登校（登園）可能とされている

特に頑固な乾いた咳と発熱が継続しているときは肺炎となっている可能性があり、医療機関の受診が必要です。更に水分摂取が困難な場合や、努力呼吸（肋骨と肋骨の間が陥没する、おなかがべこべこする）をしている場合、ぐったりしているなどの場合は早急な受診を検討しましょう。

今回はマイコプラズマ感染症について取り上げましたが、冬はインフルエンザ・急性胃腸炎など多種の疾患が流行します。これらの疾患について共通することは予防が最も重要という点です。手洗いやうがい、流行時のマスク着用などによる予防を心がけましょう。